

震災の記録を図書館に

～担当者から、ご協力をお願い～

東日本大震災におきまして被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震。この地震に起因する地震動と津波は、教育・文化・労働・産業・交通・通信など、私たちの生活に関わるあらゆる分野に大きな被害をもたらしました。国家規模での復興計画が編まれている現状、そして今後、長い年月をかけて全ての人が向き合わなければならない事柄だということを考えれば、この古今未曾有の複合災害「東日本大震災」は、今この時点で既に歴史の領域に属していると言ってもよいかもしれません。

ところで私たちは、歴史について考える時どのような方法を採用でしょうか？ 過ぎ去った時間を巻き戻すなどということは、未だ人間の空想の域を出ない夢物語です。おそらく私たちが採りうる方法は、多種多様な記録を比較検討することで、ある一時代を自己の中に再構築すること、これくらいのもではないでしょうか。

しかしその時、もし限定的・片面的な記録しか残されていなかったとしたなら——おそらく私たちは過去をねじ曲げて解釈し、場合によってはそこから誤った教訓を引き出してしまうかもしれません。

今回の震災は過去幾多の災害とは異なる特徴を持っています。その一つが、通信・出版など、情報インフラが極めて発達した時代に発生したということです。私たちの誰もが一次情報の発信者となりうる状況は、無数の人々が発信する記憶と、様々な機関が書き残す記録と、誤った情報の連鎖による流言飛語と、あらゆる回線を通じた人々の連帯と、そしてそれが入り乱れた一種の情動的混沌を生み出します。現状を振り返れば、情報の多様さゆえに震災の本質に迫りやすくもありますが、同時に情報の過多ゆえに震災の全容が把握しづらくなっている状況であると言えます。また昨日までの情報が、今日は跡形もなく消え去っているという情報の更新頻度の高さもこれに拍車をかけています。

いみじくも二戸市出身の物理学者・田中館愛橋翁の言のごとく、地震そのものを防ぐことはできなくとも、それによって引き起こされる災害は軽減できるはずで。そして減災・防災のための研究には、復興の過程で生まれた様々な情報が必要となります。またそういった先々の活用を抜きにしても、時事情報の提供と地域資料収集の役割を持つ図書館は、今回の震災に対して何らかの行動を起こすべきであると考えます。

その様な理由から県立図書館では震災関連資料の網羅的収集を開始しましたが、被災地域の広範さと情報量の多さを前に、日々悪戦苦闘をしているところです。元より単館での取り組みだけでは不十分な難事業であり、広く図書館関係者の皆様のご協力を仰がなければなりません。収集の趣旨をご理解いただき、どうかお力添えいただきますようお願いいたします。

(安保 和徳)

震災の記録を図書館に 震災関連資料をご寄贈ください

平成23年3月11日に発生した東日本大震災。
発生から現在にいたるまで、被害状況・救援活動・復興などに関する
さまざまな資料が生み出されています。
岩手県立図書館では、震災の記録を強化させること無く後世に引き継ぐため、
震災関連資料の収集に取り組んでいます。

たとえばこのような資料を集めています

- ◆ 震災関連の記録集、写真集（複製資料も含む）など
- ◆ 震災に関する調査報告書・復興に関する計画書など
- ◆ 震災関連のイベント・セミナー・相談会等のチラシや配布資料など
- ◆ 個人・団体が作成した手記・文集など
- ◆ 各種の活動記録（ボランティア関係資料、道徳冊子など）
- ◆ 震災に関わる内容のフリーペーパー、ミニコミ誌、チラシなど

このような資料を発行されましたら、県立図書館にご寄贈ください。
※可能であれば、3部ご寄贈くださいますようお願いいたします。

寄贈の方法は、ご持参いただくか下記宛てにお送りください。
※郵送いただく場合は、送料ですが、送料の負担をお願いします。

※なお、ご寄贈いただきました資料の取り扱いについては、県立図書館に一任いただきますよう、
お願いいたします。

岩手県立図書館

送付先 〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1-7-1 岩手県立図書館(震災資料担当行)
お問合せ TEL:019-606-1730 FAX:019-606-1731 Email:kyodo@library.pref.wate.jp